

# 地元にも、生活に溶けこむ伝統工芸品 オリジナルの江戸切子製品を ブランド化した「蒲田切子」

フォレスト

平成4年に大田区新蒲田のガラス工芸会社から販売部門が独立したフォレスト(大田区南久が原、鍋谷孝社長、03・5748・7321)は、来年設立25周年を迎える。

伝統工芸品江戸切子の独自ブランド「蒲田切子」を主力製品として、直営店「手仕事ショップ・フォレスト」(ライラック通り久が原)を中心に、羽田国際空港、百貨店、専門店の催事などで販売を行っている。

「蒲田切子」は、同社が設立当初から販売してきたオリジナルの江戸切子製品を平成22年にブランド化、平成25年に商標登録した。ブランド化以降、観光庁「魅力ある日本のおみやげコンテスト」ラグジュアリー・ジャパン賞(平成24年)や「東京の伝統的工芸品チャレンジ大賞」(平成25年)を受賞し、平成27年の経済産業省「The Wonder 500」日本が誇るべきすぐれた地方産品」や東京都中小企業振興公社「東京手仕事」にも認定されている。また、昨年から今年にかけて、パリをはじめヨー



ロッパに出品された。

「蒲田切子」の特長は、鍋谷社長の父馨氏が前社長を務めた東亜硝子工芸(株)が昭和30年〜40年代にかけて手がけたクリスタルガラスに円紋様を彫る切子技術をベースにしている点だ。現在は、社長の弟で江戸切子伝統工芸士の資格を持つ聰氏(東亜硝子工芸(株)現社長)が切子制作を担っている。



ライラック通り久が原の直営店

手仕事の伝統工芸技術、大正〜昭和初期の地域文化「蒲田モダン」を背景とした「蒲田切子」は、普段の生活で使いやすいデザインを心がけ、性別・年代問わず幅広く購入いただいている。国内外のお土産品、誕生日や結婚祝、クリスマスや退職記念など個人向けだけでなく、法人・団体向けの記念品・贈答品の需要も増加している。



経済産業省、観光庁などから表彰を受けた蒲田切子「蒲田モダン水鏡アンバーセット」